

編集発行責任者 伊藤 洋

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/

INDEX

01. 正面玄関ロータリーが完成しました
02. 復職支援研修について
03. 着任のご挨拶、加齢と共に忍び寄るパーキンソンと認知症
04. 患者さんの声～ご意見箱より～、公開セミナーが開催されました、編集後記

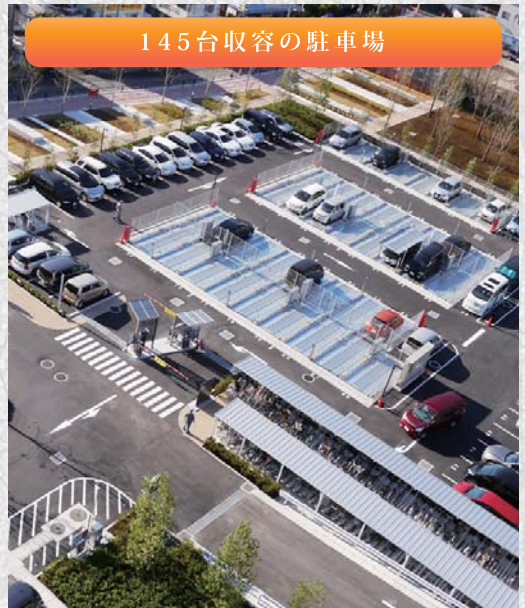
正面玄関ロータリーが完成しました

皆様におかれましては、既にご存知かと存じますが、当院新棟は昨年10月に竣工し、本年1月から稼動しております。外構整備工事におきましては、大変ご迷惑をおかけしておりましたが、皆様にご協力を頂き平成24年9月末日に完成いたしました。

新駐車場・駐輪場は正面玄関前ロータリーに隣接して設置し、平成24年10月1日から運用を開始しています。また、青砥駅と当院を結ぶ路線バスも当院敷地内に乗り入れ、停留所は正面玄関に移設され運行しております。工事期間中は、仮設駐車場、バス停留所から病院までが距離をあけて離れ、ご利用に際しましては大変ご足労をおかけしましたことを改めましてお詫び申し上げます。当院を来院される患者さんには、駐車場145台、駐輪場160台の収容を可能とし、安全性を確保する交通計画としております。また、当院敷地内には、本田消防団第十二分団の本部施設を設置する他、葛飾区公園と一体的な憩いの場としての緑地を多数整備いたしました。周辺環境も青戸六・七丁目地区計画に基づいた周辺道路の拡張など、安全で快適な街づくりの一環として整備しております。

敷地内の植栽は、春のサクラ並木と初春に咲くコブシのエントランス植栽を基本としました。病院を取り囲むサクラは、河川沿いのサクラづつみの並木道と連携して楽しめるよう植えております。また、駐車場周りのシラカシは、来院される患者さんに和やかな気持ちをもたらします。当院の外構は、全体的に緑の多い空間を創出し、患者さんに四季の彩りを楽しめる空間を演出しております。今後も患者さん、地域の皆様のニーズに応え、地域中核病院として、進化、創造し続けることを目指しております。教職員一同、懸命に取り組んでまいりますので、引き続きご支援ご協力の程 何卒宜しく願い申し上げます。

145台収容の駐車場



正面玄関ロータリーに路線バスの乗り入れ



復職支援研修について

●看護部 板垣 伸子

「少し仕事を始める余裕が出てきたが、いきなり病院等に勤めるのは、自信がない」
「今の医療情報を知りたい。注射の技術や、最近の医療現場を見たい」

葛飾医療センターでは、毎年「東京都看護職員地域確保支援事業」に協力し、看護師として再就業を希望する方が地域に必要な知識・技術を習得できる機会となる「復職支援研修」を行っています。毎年3回の研修を実施しています。研修にいらしている方は、育児や家庭に入り暫く仕事を離れていた方々がほとんどです。

研修日程は、3つのコースがあり、講義のみの1日コース・講義と演習及び病棟での看護体験を入れた5日間コース・7日間コースが選べます。講義の中では、最近の医療情勢・安全・感染に関して・薬剤知識などを組み込んでいます。また演習では、注射や患者さんの移動や体位交換等を組み込んで少しでも職場へ復帰できる準備が出来るように体験していただいています。技術だけでなく心の準備もでき、少しでも職場復帰への足がかりになればと思います。実際に研修に来られた方達の感想を聞くと、

「働いていた頃の勘が戻った」

「自分たちが使っていた医療材料と
だいぶ変わっていたので、体験できて安心した」

「働こうかどうか悩んでいたが、勇気が出た」

等の返答が返ってきます。

昨年度は、14名の方がこの研修を受けられました。その中で、10名の方が再就職されています。少しでも地域の医療機関で働いて貰えるように、葛飾医療センターでの研修を利用していただけたらと思います。今年度も、あと1回、1月に研修を企画していますので、看護師として再就職を考えている方で「再就職に不安がある。職場復帰の前に病院の研修を受けて勘を取り戻したい」などの希望がある方は、ぜひ当院の復職支援研修をご利用下さい。



着任のご挨拶

糖尿病代謝 内分泌内科



東京慈恵会医科大学
葛飾医療センター
糖尿病代謝内分泌内科

診療部長 **横田 太持**

このたび慈恵医大葛飾医療センター糖尿病代謝内分泌内科診療部長を拝命しました。平成元年に慈恵医大を卒業してから研修医、大学院時代を含め、約20年間本院でお世話になりました。本院在籍中は、糖尿病合併症の基礎的研究に従事しました。細小血管障害の発症進展因子の解明、血圧や脂質の薬が合併症にどう影響するか等を調べました。一方で、病棟長、外来医長、医局長などの仕事もさせていただき、人事関係の苦勞に携わる機会にも恵まれました。そして、このたび葛飾の地で診療にあたることになりました。

私が糖尿病を志した時代と比較すると、糖尿病診療の発展は目覚しく、それに伴い診察室の雰囲気も変わりました。検査や治療の進歩については周知のことと思いますが、私が最も大きく変わったと思うのは「医師主導」から「患者主導」への意識改革です。昔は「コントロールが悪いのは患者の責任」「糖尿病患者のコンプライアンスが悪い」という考え方が根底にあり、医師の診療意欲も低下させてしまうものでしたが、現在は「アドヒアランス」、患者の治療意欲を引き出すような診療が求められます。そのため診療にかかわる医療関係者がチームとして様々な角度からオーダーメイド医療を実践する戦略的診療形態に変わりました。

幸い葛飾医療センターはその点で恵まれた環境にあり、理想的な診療が日々行われています。このような環境は前任の蔵田英明医師が身骨を砕いて作り上げたものであり、糖尿病診療に携わるすべての職種が同じ目的意識を持ちながら、患者に向かい時間を惜しむことなく専門の見地から指導に当たる体制ができています。私はこの素晴らしい環境を損なうことなく、この地域の糖尿病診療を日本が目指す理想的診療の礎となるよう、努力していきたいと考えております。今後ともご支援ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

加齢と共に忍び寄るパーキンソンと認知症

●神経内科 鈴木正彦

感染症予防や生活習慣病への対策、癌検診などの積極的導入により、130年前の明治初期には40歳未満であった日本人の平均寿命は、現在80歳を超え2050年には100歳に達することが予想されており先進国の中でもその勢いは突出している。こうした急速な高齢化現象に伴い、長い人生で蓄積された広い知識と経験の故に社会や家族から頼られ尊敬され高齢者、すなわち長老や老成などの言葉に象徴される古き良き時代の高齢者像はもはやほとんど皆無といつてよい時代になった。

このような時代背景の中、大きく社会問題視されているのはパーキンソン病や認知症といった脳変性疾患であるが、長期療養型施設の寝たきり高齢者の半数以上が診断名すら不明であるのが本邦の実情である。近年生活習慣病が脳変性疾患の発症に深く関与していることが判明しつつあるが、健康でありながら長寿を全うするには早期診断と適正な治療介入が重要であることは論を俟たない。パーキンソン病はパーキンソン症候群の60%を占めるものの有効な薬物の選択肢が多いため、適切な投薬により発症後10年以上杖なしでの生活が可能である。アルツハイマー型認知

症も新薬が次々と登場し、今後益々早期診断が重要視されてきている。

パーキンソン病では筋強剛、安静時振戦、姿勢反射障害、無動・寡動といった運動症状が出現する以前より、嗅覚障害やREM睡眠行動障害、便秘やうつといった非運動症状が先行することが知られ、発症前診断に役立つ可能性がある。アルツハイマー型認知症は脳の神経細胞が少しずつ消失し脳が萎縮していく病気であり、認知症の中で最も多いタイプであるが、認知症に至る前段階、すなわち、まだ生活に支障をきたすほどではないために気づかれにくい「軽度認知障害」と呼ばれる時期があり、このステージでの診断に注目が集まっている。

葛飾医療センターの位置する城東地区は200万の人口を抱えているが、患者さんやそのご家族が住み慣れたこの地域で安心して暮らしていくためには、同窓の先生方をはじめとする各地域医師会や包括支援センターなどの公的支援機関との地域連携を基盤としたシームレスな医療体制構築が必要である。



患者さんの声

ご意見箱より



ご意見①

青砥駅からの直通バスの停留所が病院から遠すぎる。

病院外構工事のため、旧停留所は病院入口から遠く、ご足労をお掛けしておりました。
平成24年10月9日より、青砥駅との直通バスについては病院正面玄関までの乗り入れとなりました。
通院・ご面会等の際は是非ご利用下さい。

●京成バス(京成青砥駅⇄慈恵医大葛飾医療センター)

運賃:大人:150円(PASMO・SUICA使用)※現金200円

小児:80円(PASMO・SUICA使用)※現金100円

※日曜・祝日・大学記念日(5月1日・10月15日)

・年末年始は運休となります。

ご意見②

検査室の掃除が行き届いていないと感じました。

検査中は清掃を実施することが難しく、予約の間を見計らって清掃をおこなっている状況でしたが、行き届かないところがあり申し訳ございませんでした。今後は作業時間を見直し、丁寧な清掃を心がけてまいります。

ご意見③

玄関前の警備員の対応がとても親切でした。

今後も患者さんのお役に立てるよう、より一層のサービス向上と暖かな接遇をスタッフ一同心がけてまいります。

公開セミナーが開催されました

平成24年9月8日(土)に当医療センター5階講堂において、第32回公開セミナーが開催されました。

今回は「肺がんのお話」をメインテーマとし、呼吸器内科・児島章医師、外科・平野純医師がそれぞれの専門領域についてお話ししました。

肺がんの治療においては、化学療法を中心とした内科的治療、腫瘍の切除を目的とした外科的治療をがんの進行状況に応じて組み合わせる必要があります。呼吸器内科・児島医師からは、「肺がんの基礎知識」として、たばこと肺がんの関係性や、診断・ステージごとの治療方法などについてのお話があり、また、外科・平野医師からは「肺がんの外科治療」として肺の構造と手術方法、手術合併症や治療期間等について説明を致しました。講演終了後、それぞれの医師に対し、参加者から多くの質問が飛び交う活発なセミナーとなりました。

葛飾医療センター開院後、2回目の公開セミナー開催となりましたが、近隣住民の方々を含め多くの方々にお越し頂きました。今後も引続き市民のみなさまの役に立つセミナーを開催してまいりますので、ぜひご参加下さい。

※今後のセミナーの予定は、ホームページや院内ポスターにてご案内いたします。



編集後記

暑かった夏も、気がつくとちらほら紅葉の便りが届く季節となってきました。

葛飾医療センターも徐々に装いも整い、紙面でも紹介していますが、10月からは青砥駅から当センターの正面玄関までバスの運行が開始され、駐車場もオープンし、外交整備も12月には完了する予定です。

葛飾医療センターも2年目を迎えることになり、安心・安全な医療の提供に、更なる努力をしておりますので、よろしく願い申し上げます。